

麻布地域の人々が取材 編集する地域情報紙



アートな麻布に魅せられて②④

六本木 蔦屋書店で過ごす アートなひととき

©2020 おおばまりか

六本木ヒルズ冬の風物詩、イルミネーションが美しいけやき坂通りの六本木 蔦屋書店。人気のコーヒESHOPを1階にかまえ、人々で賑わう書店の2階にはセミプライベートなギャラリーが誕生した。

「TSUTAYA TOKYO ROPPONGIリニューアル(2020年3月)のタイミングで、店名を六本木 蔦屋書店へ変更し書籍に特化し、新しい切り口として何ができるか、六本木ヒルズという環境の下で何が求められているか、時間をかけて検討してきました」と六本木 蔦屋書店ギャラリー運営責任者の飯泉宏之さんは話す。

「六本木は、赤坂、神谷町、三田、白金、広尾、青山といった生活圏を持ち、外国人が多く暮らすまち。本屋というクロスカルチャーな世界に集う人々の日常空間に、アートスペースを設けたいと思うようになりました」

アートシーンに登場するギャラリーの多くは、スペースを一定期間ごとに作家に貸すレンタル・ギャラリー(貸画廊)と、作家と契約をして作品を展示、販売する商業・ギャラリー(企画画廊)に分けられる。後者であるこちらのギャラリーでは、プライマリー(一次市場)^{※1}として現代アートを中心に、企画した作品を世に送り出している。つまり作家の最

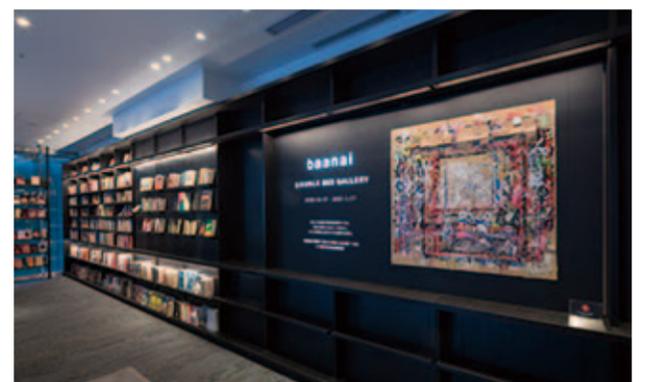
新作を観て購入できるということ。

「オープニングはクイックターン・ストラクチャー^{※2}と呼ばれる技法を使って壁画やペインティング作品を発表している大山エンリコイサム氏の新作展示を開催しました。本屋の中のギャラリーということで、より本に近い作品を新たなシリーズで展開し好評でした」

「当初は本棚の上にも作品を展示しましたが、100号キャンバス(1620×1303F規格)を飾るには高さが必要となり、本棚の前に壁をたて壁面を広げました」(写真²、³)

同じ床面積でも空間天井の高さが変われば空間の広さの印象も変わる。広さおよそ33平米のスペースの柔軟なレイアウトが可能になった。

現在、2021年1月17日(日)まで新進気鋭の作家 baanai (バーナイ)の個展を開催中(写真¹、⁴)。COMME des GARÇONS (コム・デ・ギャルソン)の川久保玲氏に才能を見出され、神奈川県藤沢市鶴沼を抛



1 エスカレーターを上った所に展示会のお知らせがある



2 扉のない自由なアートスペース



3 ギャラリー奥のコンシェルジュデスク

点に活動を続けている。今回の個展で幾度となく鶴沼のアトリエに足を運んだ飯泉さんは、未来のアートシーンを担う若手作家に着目し、「次世代のワールドクラスになる人を僕が目で見たい」と笑顔を見せた。

緊迫した日々が過ぎていった2020年。新しい生活様式を送る中で抱え込んでしまったストレスを、この場所で、リリースしてみる。気持ちが風いでゆくのを実感できる。

※1 美術市場における一次市場のことで最初に作品が販売される場所。
※2 「話題の人 ストリート発祥の地で創作活動を展開」『三田評論』(慶應義塾 2020年11月号No.1249)大山エンリコイサム氏へのインタビュー記事を参照。クイックターン・ストラクチャーをご自身の言葉で語っている。

●取材協力 六本木 蔦屋書店 <https://store.tsutaya.jp/roppongi/>
●参考文献 瀬木慎一『日本美術の社会史』(里文出版 2003)



4 「DOUBLE BED GALLERY」と題した個展を開催中



麻布が舞台「霞保育園で待っています」

未来へ残したい麻布の声

作家 麻海 晶さん (64)

タイトルの霞という文字から、西麻布の霞町(現 西麻布1丁目付近)が舞台かなと思いつきながら読み進むと、実は麻布十番らしいという予感が。保育士ではない麻海さんが、なぜ保育園がテーマの小説を書き上げたのか、ご本人に確かめるべく、お話を伺いました。



作品の舞台は麻布十番です

「霞保育園は正に、麻布十番のどこかにある保育園です。麻布十番商店街や、そこにあるお店や人々もたくさん登場します」

フィクションでありながら、登場人物のモデルはいるようです。

「はい、その通りです。作品に登場する保育士、職員のモデルは実在の人物ですし、事件や出来事も元ネタがあります」

ところで、保育士ではない麻海さんが、区立保育園の日常を細かく追っています。保育園を舞台にした理由があるのでしょうか。

「妻が港区でほぼ40年、園長時代を含めて、8~9の保育園で勤務した保育士なのです。私は都の福祉保健局に勤めておりましたので、その経験から児童相談所、児童養護施設、里親制度、養子縁組などの関わり合いが多々ありました。これらのテーマを、保育園が舞台の今回の作品にも織り込むことができました」

なぜ、保育園が舞台の小説を書こうと思われたのでしょうか？

「きっかけは妻の話が興味深く、熱心に聞くようになってからです。保育士や職員がさまざまな出来事に立ち向かって奮闘する様子、協力して助けてくれる地域の人々のこと、子どもと親の関係など、いつか記録に残したいとずっと思っていました」

麻海さんは、奥さんの保育園の運動会や発表会など、時間があれば行事の見学にも出かけて行きました。子どもたちと接する機会もありました。町内会の祭りなどに参加して、地元での繋がりも大切にしてきました。そして約20年構想を温めていた内容を、何と！ たった1カ月間で書き上げたといいます。

「子どもは街の宝だ」の思いを込めて

作品には、多くの人物が登場します。ざっと数えて30名近く！ 本誌見開き2ページにわたり、霞保育園の職員、霞保育園の子どもと保護者、霞商店街と地域の人々などが細かく紹介されていて、圧巻です。保育園をとりまく人間関係がいかに広く、奥深いものかがよく分かります。

作品の内容は、霞保育園の5歳児の担任であるわたし(冨木舞衣子)を通して、子ども同士、地域や商店街の人々のふれあいや経験を重ねながら、1年間を追っていく「保育園を舞台としたお仕事小説」と麻海さんが説明してくれました。



二の橋を渡り、オーストラリア大使館方面に続く日向坂も、麻海氏の通い慣れた散歩コース。



本作でも、秋祭りに神輿がオーストラリア大使館へ入っていく。大使館の多い麻布界隈ならではの光景。外国籍の子どもたちが保育園に通園するケースも多い。



きみちゃんは子どもたちも大好き。2020年はコロナの影響で、残念ながら、マスクを外せない毎日となってしまった。

その中で「子どもは街の宝だ」と言う地域の人たちが、たくさん登場してきます。保育は保育園だけでしているものではなく、家族や地域が子どもたちの成長をみつめ、応援している、この熱い思いと優しさを作者、麻海さんが読者に伝えたいことだと感じました。「御近所ミステリー」的に、地域で起きる事件や問題を解決していく話もあり、わくわく感もありました。

一方、家族内のDVと恐怖の脱出劇、保育園に現れた偽物、子どもだけの家=育児放棄?など、目を背けてはならない



※「霞保育園で待っています」
八月書館刊(¥1400+税)
八月書館HP
http://www.hachigatsusyokan.co.jp
表紙は、人気イラストレーターげみさんが描き、麻海さんのイメージ通り。素敵に仕上がっています。



麻海夫人作成の膨大な資料のほんの一部。

切実な問題も描かれており、大いに考えさせられます。主人公、舞衣子の秘密も詰められて、読み応えのある1冊に仕上がっています。

麻布十番という舞台だからこそ描けた世界

本誌の中では、霞商店街のさまざまなお店が登場しています。麻布十番に親しんでいる人には、お店の名前は容易に想像が付き、霞商店街は、麻布十番商店街だと察しがつきます。麻布十番へは徒歩圏という麻海夫妻の散歩コースとなっています。プライベートでも、お気に入りのお店で一杯ひっかけたり、食事やショッピングをしたり、生活圈そのものなので、愛着もひとしおです。

「娘2人も港区立の保育園、小学校でお世話になりましたし、麻布十番は切っても切れないご縁があります」

だからこそ、街の人々の人情や繋がりを読みとってほしいと、麻海さん。

保育園の日常と共に伏線として、舞衣子の愛と成長も描かれています。「踊る大捜査線、保育園バージョン」に、話をまとめ上げている」という読者の感想コメントに、麻海さんは、とても感動したと言います。

「時代と共に、保育園を取り巻く環境や状況は変化していますが、変わってはならないものを、この作品を通じて、感じ取って頂ければ幸いです」

保育園の今の姿を伝えながら「この本を読んだら、もう一度、保育園に行きたくなる」の帯の文章を読みながら、その通りだと納得してしまいました。元気になる一冊です。保育士不足と言われる昨今、この作品を通じて保育士を目指す若者が増えていけばいいなど切に思いました。麻海さんの次の作品は既に書き終えているそうです。公共サービスの現場お仕事シリーズ」第二弾も、大いに期待しましょう。

作品内、朝海園長先生、ご主人の通称パパさんも常連の立ち飲み屋さん、麻布十番ランドマーク、パティオの近くにある。作者の麻海氏も、足繁く通っているもよう。



作品中、主人公の舞衣子をはじめ、保育士、職員がさんざん通った急勾配の鳥居坂。以前は坂上に向かって左手に、実際に保育園があった。



以前あった保育園周辺は、再開発の真っ只中。このあたりを歩くと懐かしい、と麻海氏。





麻布の達人が作った散策マップ



麻布地区の魅力のひとつである歴史・文化を学び、まちの魅力の発信者としての活動をしている「あざぶ達人倶楽部」では、過去約10年間にわたり麻布の散策マップを制作してきました。制作に関わったメンバーの談話を織り込みながら紹介します。



麻布の達人による
詳細な情報が満載

手作りマップの温かさ

マップを作り始めたのは2010(平成22)年。以降、毎年1枚のペースで、異なるエリア・異なるテーマのマップを作成してきました。制作物は麻布地区総合支所等で配布しており、ネットでも公開しています。まち歩きの際に使いやすい、折りたためる一枚物。手作りの温かさが感じられる素朴な外観ですが、「よくここまで調べたな」「さすが麻布の達人」と感心する解説がぎっしり。情報の質と量に圧倒されます。麻布をよく知る地元の親切な先輩から、「知る人ぞ知る」「とっておきの」情報を教わっている気持ちになります。



まち歩きに
便利なサイズ

麻布の魅力伝えたい

麻布には魅力的なスポットが多数あります。台地と谷地が入り組んだ複雑な地形、旧大名屋敷の庭園や歴史ある神社仏閣の緑、豊富な湧き水、高台の閑静なお屋敷街と坂下の賑やかな商店街のコントラスト、有名人の旧居や歴史の舞台となった場所も。散策マップ作成にあたっては、この魅力を余すことなく、かつ正確に伝えたいとの思いから、文献調査・現地調査を丹念に何度も実施し、歩くルートや各スポットの解説にも熟考を重ねたとのことです。

地図に残す、まちの記録と記憶

麻布のまちは変化が激しく、テナントの移動や建物のスクラップアンドビルドが頻繁に行われています。大規模な再開発では広いエリア全体が全く新しいまちに生まれ変わる事も。そんな中で作成されたマップは、数年後には「過去の遺物」となってしまうのでしょうか。

「常に情報がアップデートされるネットの地図があるから、紙の地図は不要」という意見があります。その一方で、「過去と現在の地図を重ね合わせて、まちの変遷を辿る楽し



(現在はなくなっている建物もあります)

み」が広がっており、関連本も多数出版されています。あざぶ達人倶楽部が作成したちょっと昔の散策マップも「その時々麻布の姿」であり、まちの変遷を物語る貴重な資料です。情報が古いからと捨ててしまったら勿体ない。未永く楽しみたいと感じました。

今後の予定

あざぶ達人倶楽部は、2018(平成30)年4月より「あざぶ達人ラボ」に名称を変えて活動を継続しています。今後も散策マップの制作およびアップデートを継続していく予定とのことです。

●あざぶ達人倶楽部の紹介および制作物: <https://www.city.minato.tokyo.jp/azabuchikusei/tarhujin.html>



●作成したマップの一覧

No.1~7はネットで公開しており、No.7はゲーグルマップでも公開しています。

No.	名称	発行年
1	歴史散策マップ(麻布十番・元麻布・南麻布)	平成23年3月
2	歴史散策マップ(六本木・西麻布)	平成24年3月
3	歴史散策マップ(麻布台・麻布狸穴町・麻布永坂町・東麻布)	平成25年3月
4	古川今昔~愛される古川~	平成26年3月
5	筈町ってどこ?~幻の筈川に沿って~	平成27年3月
6	Let's Enjoy Azabu 麻布	平成27年3月
7	麻布地区歴史散策マップ	平成28年3月
8	麻布の魅力発見マップ~ようこそ麻布へ~	平成30年3月

制作の様子
(2017(平成29)年)



(取材・文/八巻綾子)

港区麻布地区総合支所だより



麻布地区
地域事業

「ルール違反ゼロの六本木へ」 合い言葉は ZERO ROPPONGI ~六本木安全安心憲章~

ルールがあるから自由がある。たくさんの人と文化が集う六本木で、すべての人が自由に、楽しく過ごせるように。

「清掃・啓発活動」と「客引き防止パトロール」を主なテーマとして、町会・自治会、商店会、事業者、関係行政機関の皆さんとキャンペーン活動を行っています。
活動に興味のある人は、お気軽にお問い合わせください。

六本木安全安心プロジェクト ~おうちごはんステイホーム~

六本木安全安心憲章推奨・賛同事業所のテイクアウト&デリバリー情報をご紹介します。



事業所一覧は
こちらから

憲章に賛同する店舗・事業所を募集しています。

区では、憲章を周知する一環として、港区「六本木安全安心憲章」推奨事業所等認証制度を実施し、憲章の趣旨に賛同する事業所等を随時募集しています。

- 対象** 六本木地区(六本木3~7丁目、赤坂9丁目7番)に主として立地または活動する事業所等
- 申し込み** 直接または郵送で、賛同書に必要事項を明記の上、麻布地区総合支所協働推進課へ。また、以下の港区ホームページでも可。
※「賛同事業所等」として、名称を港区ホームページや本紙に掲載します。

賛同書の申請フォームは、こちらから
港区ホームページ <http://www.city.minato.tokyo.jp/>

六本木安全安心憲章

検索



ルール違反 ゼロの六本木へ。
合い言葉は、ZERO ROPPONGI

お問合せ/麻布地区総合支所
協働推進課協働推進係
電話/03-5114-8802

港区まちづくり条例を活用した まちづくりの仕組みのご紹介

港区では、地域の課題は地域で解決し、地域の発意と合意に基づくまちづくりを推進するため、地域主体のまちづくり活動を支援しています。
現在、麻布地区内で組織登録されているまちづくり組織は下図のとおり4団体あります。(令和2年4月1日時点)興味のある方は、麻布地区総合支所まちづくり課まちづくり係までお問合せください。

まちづくり制度の手順

STEP1

みんなでまちについて考える

自主的なまちづくり活動を
始めようとする段階

STEP2

活動の輪を広げる

まちについて考えていくため
「まちづくり組織」をつくる段階

STEP3

将来像を共有する

地域の区民のみなさんと
考え方を共有する段階

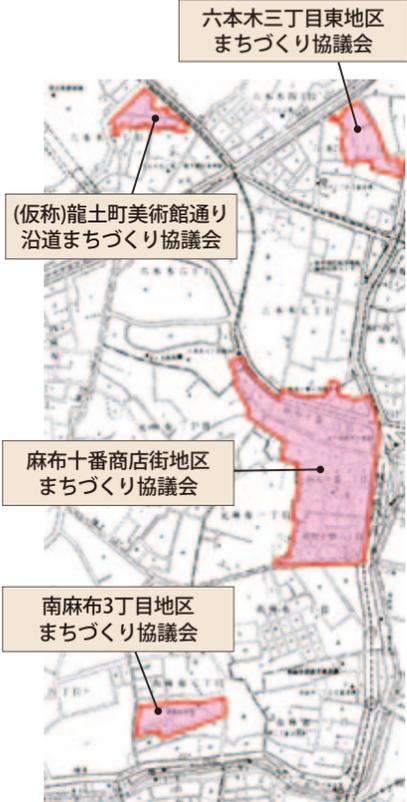
STEP4

まちのルールをつくる

具体的なまちづくりルールを
決めていく段階

STEP5

まちづくりを実践する



お問合せ/麻布地区総合支所
まちづくり課まちづくり係
電話/03-5114-8815

自転車の損害賠償保険に加入していますか？

令和2年4月から自転車損害賠償保険等の加入が義務化されました

港区民交通傷害保険は、少額の保険料で加入でき、車両による交通事故でケガをしたときに、入院・通院の治療日数と治療期間に応じて保険金をお支払いする制度です。自転車または身体障がい者用車いすの所有・使用・管理に起因して、他人にケガを負わせたり、他人の財物を壊したり、誤って線路に立ち入ったことなどにより電車等を運行不能にさせたこと等によって発生した、法律上の損害賠償を補償する「自転車賠償責任プラン」もあわせて募集します。
※自転車賠償責任プランのみに加入することはできません。

加入対象者 令和3年4月1日時点で港区に住所・勤務先・学校がある人

保険期間 令和3年4月1日午前0時~令和4年3月31日午後12時

加入申込方法

受付場所	区内在住者		区内在勤・在学者
	個人加入	10人以上の団体加入	
各地区総合支所協働推進課 区内金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・ゆうちょ銀行・郵便局)	各地区総合支所協働推進課	各地区総合支所協働推進課	区内金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・ゆうちょ銀行・郵便局)
加入方法	上記にて配布する加入申込書に必要事項を明記の上、保険料を添えて申込み	団体加入申込書に必要事項を明記の上、人数分の保険料を添えて申込み	上記にて配布する加入申込書に必要事項を明記の上、保険料を添えて申込み
申込期間	各地区協働推進課 令和3年2月1日(月)~令和3年3月31日(水) 区内金融機関 令和3年2月1日(月)~令和3年3月22日(月)	令和3年2月1日(月) ~令和3年3月31日(水)	令和3年2月1日(月) ~令和3年3月22日(月)

コースの種類と保険料

表の7つのコースから1つのコースを選んでご加入ください。複数のコースへの加入はできません。

コース	補償内容	一時払保険料	最高保険金額
A	区民交通傷害Aコース+被害事故補償	900円	150万円(交通傷害)+600万円(被害事故補償)
B	区民交通傷害Bコース+被害事故補償	1,500円	350万円(交通傷害)+600万円(被害事故補償)
C	区民交通傷害Cコース+被害事故補償	2,500円	600万円(交通傷害)+600万円(被害事故補償)
XJ	区民交通傷害Xコース+自転車賠償プラン+被害事故補償	1,400円	35万円(交通傷害)+1億円(自転車賠償)+600万円(被害事故補償)
AJ	区民交通傷害Aコース+自転車賠償プラン+被害事故補償	1,900円	150万円(交通傷害)+1億円(自転車賠償)+600万円(被害事故補償)
BJ	区民交通傷害Bコース+自転車賠償プラン+被害事故補償	2,500円	350万円(交通傷害)+1億円(自転車賠償)+600万円(被害事故補償)
CJ	区民交通傷害Cコース+自転車賠償プラン+被害事故補償	3,500円	600万円(交通傷害)+1億円(自転車賠償)+600万円(被害事故補償)

詳しくは、損害保険ジャパン株式会社東京公務開発部営業開発課(新宿区西新宿1-26-1)までお問い合わせください。 ☎03-3349-9666 (平日午前9時から午後5時まで)

お問合せ/麻布地区総合支所協働推進課協働推進係 電話/03-5114-8802

引受保険会社/損害保険ジャパン株式会社

承認番号: SJ20-10541 承認日: 2020/12/01

買い物
するなら
地元の
商店街で

ザ・AZABUへの
ご意見・ご要望を
お寄せください

住所・氏名・職業(学校名)・電話番号・ご意見・ご要望(日本語又は英語、字数・様式自由)を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当へ。

●電話/03-5114-8812 ●FAX/03-3583-3782

地域情報紙「ザ・AZABU」は
ホームページからも
ご覧いただけます。



「ザ・AZABU」は英語版も発行しています。

ザ・AZABU

●配布設置場所ご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番、赤羽橋の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館、南麻布・ありす・麻布・西麻布・飯倉の各いざいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等
●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Staff 出石 供子 田中 亜紀
おおばまりか 田中 康寛
大村 公美子 西森 瑞穂
加生 武秀 畑中 みな子
加生 美佐保 堀内 明子
小池 澄枝 堀内 實三
Mai S. 堀切 道子
田岡 恵美 八巻 綾子
高柳 由紀子 米沢 恵美

編集後記

毎年、バレンタインデーまで楽しめる、けやき坂通りのイルミネーションですが、2020年はニューノーマル時代の変化で、クリスマスまでの点灯となりました。実際の煌めきとはいえませんが、53号の表紙でその一片をお届けします。

(おおばまりか)

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。
年中無休/午前7:00~午後11:00 ※英語での対応もいたします。

電話/03-5472-3710 FAX/03-5777-8752

お問合せフォーム/ <https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form.html>

“Minato Call” information service

Minato call is a city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.

Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752;

Inquiry submission form: <https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form-inquiry.html>